

No.12  
2002. 9. 1

# 地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人  
地球の木 理事会  
■発行責任 横川芳江  
■編集 広報部  
■事務局 〒231-0032  
横浜市中区不老町1-3-3  
フェニックス関内2F  
TEL 045-228-1575  
FAX 045-228-1578  
E-Mail: CZR10753@nifty.ne.jp  
<http://homepage1.nifty.com/EarthTree>

## CONTENTS

- 便利で豊かな生活が産み出すもの
- 学校で平和を考える
- 地球の木仲間づくりキャンペーン
- 支援地からくプロジェクト最新情報>
- 本当の豊かさって何?タ子のバングラデシュ訪問記
- 「軍隊をすてた国」自主上映に参加して
- INFORMATION 事務局移転のお知らせ

平和  
を考える

## 便利で豊かな生活が産み出すもの

理事 広瀬 康代

### ●終わりなき戦い●

昨年9月の同時多発テロでニューヨーク貿易センタービルに旅客機が突っ込んでいく悲惨な映像が何度も何度もテレビで流され、それ以降「戦争」や「平和」について日本の社会でも語られることが多くなりました。

ビル崩壊で罪の無い人々がたくさん亡くなり、その追悼の様子や遺体の見つからない家族の悲痛な叫びを何度もニュースで見ていると、このような悲惨なテロを二度と起こさないためには、ブッシュ大統領の「テロ撲滅のためのアフガニスタンへの空爆」もやむをえない事なのかと私は悩みました。しかしアフガニスタンでもその空爆で多くの一般市民が犠牲となり、たくさんの難民が国を追われました。これからは憎しみしか生まれません。それはイスラエルとパレスチナの「暴力の連鎖」を見ればわかります。

### ●フィリピンでも●

先日、地球の木の支援先のフィリピン、ネグロス島の駐在員、大橋成子さん（日本ネグロスキャンペーン委員会）を招いて、プロジェクト報告会を行いました。ツブラン農場などの報告の他にミンダナオ島で反政府組織「アブサヤフ」の現状を視察された話がありました。ミンダナオ島対岸のバシラン島では、「バリカタン」（肩を組む）と名づけられたフィリピン軍、アメリカ軍による合同軍事演習が行なわれています。表向きの目的は、イスラム・テロ集団とされている「アブサヤフ」の合同制圧軍事作戦です。しかしフィリピンでは昔からイスラム教の人が特にミンダナオ島、スル諸島には多く住んでいます。また、「アブサヤフ」を構成しているのは60～100人と言われています。それを6,000人のフィリピン軍と660人のアメリカ軍で制圧しようとしているわけです。その裏には、大国間の関係や意図、野望などが明らかに存在しています。そしてやはりその軍事作戦で被害を受け犠牲になっているのは、ずっと

その土地に住んでいた老人、子ども、女性たちです。家を焼かれ、略奪にあい避難民とな

って住む地を追われています。なぜ弱い者が苦しまなければならないのでしょうか。

### ●私たちに何ができるのか●

「戦争」、それは私たちの暮らしから遠く離れた話ではありません。今の私たちの生活を考えた時、夏の暑い日、寒いくらいに冷房するのにエネルギーを使い、冬の寒い日、半袖でいられるくらいに暖房を入れエネルギーを使います。また食べたいものは世界中のどこからでも手に入れ運んでくる、それにかかるエネルギー。私たちの豊かな（？）生活は石油に依存しています。そしてそれを手に入れるために、世界中で「戦争」が起こっています。

このまま何もせずにこの生活を続けていてよいのでしょうか。私たちがこの生活を見直さなければ、悲劇はいつも繰り返されます。私たち一人ひとりが今の生活を考え、何か行動することが戦いを起こさない第一歩となるのではないかでしょうか。

そういう私も大量消費、環境破壊などいろいろなことに疑問をもち、地球の木の外に生協活動などにも参加してきましたが、実生活では壁にぶち当たり悩みながらの毎日です。簡単なようですが毎日の生活を見直すことは大変なことです。しかし一人ではできないこと、続かないことも仲間と一緒にあつたら、ともに学習し考えを深め行動することができます。

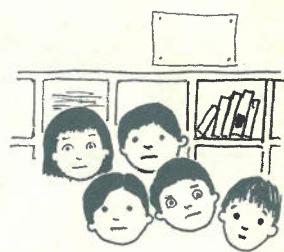
一人ひとりが平和への想いを強く持って、次の世代に「戦争」のない豊かな地球を引き継ぐために一步、踏み出してくださいませ。



# 学校で「平和」を考える

地球の木は、小・中学校・高校などで支援地での経験を元にした出前講座をしています。

9・11以来の世界情勢をきっかけに、出前メニューに「平和」が仲間入りしました。



## 平和、一人の人間として生きるということ

鶴見区市場中学校のワークショップに参加して

開発教育チーム 小島 海

私が市場中学校1年生の平和を考えるワークショップに助手として参加したのは、もう数ヶ月も以前のこと、ようやく桜の花が開くころでした。しかし、今でもその授業の様子は鮮明に思い出すことができます。90分という短い時間でしたが、生徒たちは現実の世界で何が起きているかを自分の目で見て、それを自分の心で認め、そして自分の頭で考えるという授業を通して、将来平和を担う一人ひとりの人間として大きな経験をしたのではないでしょうか。

まず、授業の前半部分は現実を知るということに重点を置いて進められました。生徒の緊張を解くための導入部では、世界の難民に関するクイズを行ったり、自分の体を動かして日本の難民について知ったりしました。授業なのに鉛筆も机も黒板も使わない形式に戸惑ったのか、意見を求めるとき友達の後ろに隠れてしまう生徒もいましたが、問いかけが少し進むと、多くの生徒が相手の目を見て自分の考えを述べるようになった事には本当に驚かされました。



初のファシリテーター体験（右側が筆者）

また、インドシナ難民として日本に渡ってきた男性の体験談が読まれたときは教室中に静寂が広がり、みんな真剣に耳を傾けていました。

10分間の休憩時間はさんだ後半部分では前半部分で得た具体的な知識をもとに、自分で考えることに重点が移されました。まず一人ひとりで自分が難民だったら何を大切にするかを考えました。空気、食事、愛、休暇、お小遣い等、かなり悩んでいました。そして各自で考えた後はグループで他の人がどう考えたかを聞き、自分でどう考えたかを発表し、グループで意見をまとめる作業を行いました。この頃になると生徒たちは緊張が解け、授業の形式にも慣れた様子で、かなり活発にグループごとの話し合いを進めていました。

そして授業の最後に行われたのが、ほかの人の「いいところ探し」です。相手のことを真剣に考えてよいところを見つけ出し、それを認め、相手に伝えるという作業を通して生徒たちは自然に平和とは何であるかを吸収しているように感じられました。

私はまさに、相手を知り、理解し、考えるというごく単純な行動こそが平和を築くための大きな武器であると考えています。だからこの授業を通して、知識、理解、そして思考という何より強い武器を身に付けた一人ひとりの生徒たちが担ってゆく未来には、明るい光が差していると確信しています。



## 地球の木 仲間づくりキャンペーン

# えっ！シンプルなくらしが平和につながるの？ 副理事長 丸谷士都子

私たちはどのような世界に今生きているのでしょうか？「世界がもし100人の村だったら」の本の中にこのようなくだりがあります。

「20人は栄養がじゅうぶんではなく

1人は死にそうなほどです

でも15人は太り過ぎです」

「すべてのエネルギーのうち

20人が80%を使い

80人が20%を分けあっています

75人は食べ物の蓄えがあり

雨露をしのぐところがあります。

でも、あの25人は

そうではありません

17人は、きれいで安全な水を

飲めません」

If the world were a village of 100 people  
世界がもし100人の村だったら



池田香代子 再話  
C.ダグラス・ラミス 対訳

地球の木は「NGO非戦ネット」の賛同団体になりました。NGO非戦ネットは、世界と日本で起こりつつある軍事化と戦争の動きに反対し、平和に向け行動するために集まったNGO有志のネットワークです。

「地球上のすべての人々が自然と共に存し、人が人らしくあたりまえに生きていくことができるよう」と地球の木趣意書にうたわれている通り、私たちの目的も平和への行動です。これまで、支援先で出会った人たち、そしてその暮らし方から、はっとするような学びがありました。戦争で荒れ果て、人を信じることができない社会の中で支え合い、徐々に信頼と自信を回復していったカンボジアの人たち、森を自らの手で守自然と暮らすラオスの人たち、力を合わせて自立できる農業をめざすフィリピンの農民たち、識字を通して社会参加に目覚めるネパールの女性たち。自然を壊さない暮らし方を紹介してくれたタイのシニットさんのお母さん。どの人たちも自然の大切さを知っています。「足りる」ということを心得ています。

本当に豊かな暮らしとは何でしょう？世界の豊富な資源を一部の人間が奪ってしまうことではないはずです。私たちの使い捨ての暮らしを変えていくことこそが戦争への道を絶つこと。地球の木では、日常できる「平和運動」をテーマにキャンペーンを展開します。

「もしもたくさんのわたし・たちが  
この村を愛することを知ったなら  
まだ間にあります  
人々を引き裂いている非道な力から  
この村を救えます  
きっと」

と「世界がもし100人の村だったら」は結んでいます。

## 参加しませんか？

- 勉強会 「私たちの暮らしから考える“非戦”」

講師：田中優氏

私たちのライフスタイルと世界の問題のつながりを学習し、何ができるか話し合います。(p.8参照)

## 募集します！

- シンプルライフ探検隊メンバー

各地で新しいライフスタイルの提案をしているスポットへのツアーを行います。

第1回一府中市の「カフェ・スロー」訪問を予定 「スロー・ダウン」することを提案するこのカフェは、フェアトレードや地域通貨など、新しい試みが多いいっぱい。コーヒーはもちろん地球の木でも扱っている有機無農薬コーヒー

- シンプルライフ実践のアイディア募集

エネルギーをあまり使わない、ごみを出さない、そして心が豊かになれる暮らし方を教えてください！

- エコロジカルなライフスタイルを提唱している

お店やグループ紹介

あなたの地域にこんな場所やグループはありませんか？もっと増えるよう、応援したいですね！

- シンプルライフの冊子作成

集まったアイディア、お店、グループ紹介、エコツアーレポートなど盛りだくさんの冊子を作成します

応募方法：地球の木事務局にe-mail、FAX、または郵送でお送りください（〆切11月30日）採用された方には冊子をお送りします。詳しい情報は、ホームページ、ちらしをご覧下さい

## NGO非戦ネットとは？

NGOの有志が、対テロ戦争と有事立法に反対するために立ち上げたネットワークです。NGOだからこそ発信できる声を市民に届け、市民が広く結集できるネットワークをめざしています。9月と10月をNGO非戦ネットの「平和と共生のための月間」と位置付け、関係団体の平和に向けた様々な企画を、一連のキャンペーンとしてアピールすると共に独自の企画も行う予定です。

「私たちは、今黙っていて将来に悔いを残すよりは、たとえどんな小さな運動でも、思いを同じくする人が力を合わせて今できることをしたいと思いました」

(声明文より抜粋)

フィリピンから

## 進まぬ農地改革

私たちが支援しているツブラン農場の3人の研修生の出身地であるエスペランサ（元砂糖農園）では苛酷な土地闘争が強いられている。

フィリピンでは1988年農地改革法が制定されたが、大土地所有者の農地解放が進んでいない。たとえ農園労働者に農地を手に入れることが認められても、土地権利書を手に入れるまでに30~40年かかり、その間土地代を支払っていかなければならない。また農業の知識のない人々が技能を取得するために公的支援などを期待することはできない。1999年エスペランサ農園の労働者はPAP21（注）の支援の下に自立への第一歩を踏み出したが、地主からの提訴によりその歩みを止められてしまふ。



また、裁判は現在最高裁で争われており、エリートの多い最高裁の判決は農民に不利になる可能性が高く、判決がいつになるかもわからない。この間、農園では地主の雇った私兵が道路封鎖、威嚇発砲などを行い農作業ができない状態となっている。

5月に来日したPAP21のジョエル氏によれば、つい最近エスペランサの土地問題を支援しているNGO事務所が何者かに荒らされ、PAP21も軍から、これ以上関わると「暗殺者リストに載せられる」と警告を受けたそうである。今後の動静が気にかかるところである。地球の木フィリピンチームではエスペランサの人々を応援していきたい。

（フィリピンチーム 米林 大作）

（注）日本ネグロスキャンペーン委員会と協力してネグロスで活動している現地NGO

ラオスから

## ラオスでも始まった企業進出

ラオスの農村では、いま企業による契約栽培が広まりつつあります。人や生活物資の行き来が活発になり、自給自足で成り立っていた村の生活が変化するのに平行して、契約栽培という形で企業も村に入ってきます。

契約栽培というのは、企業がトウモロコシ、大豆などの商品作物の種（苗）、化学肥料、農薬などをセットで農家に貸し付け、収穫物を企業が買い取る形をとります。話の通り買い取ってもらえばいいのですが、干ばつや大雨で収穫が少なかったり、一定の規格以外の収穫物は買い取らなかったりして、多額の借金が残ることがあります。タイでは多大な借金を負い、土地を手放す農家も多く生まれました。

カムアン県のピートシーカイ村では昨年多くの農家で大豆の契約栽培を行ないましたが、大雨のため大豆が全滅し、一軒当たり150円くらいの借金が残りました。これはそんなに大きな額ではありませんが、うまい話に乗って企業との関係が深まれば、今後借金が積み重なっていくことが予想されます。

農家にとって、農薬、化学肥料、契約栽培、銀行などに関する情報・知識はほとんどありません。電気もない村では（ラオスの電化率は34%）、企業といっしょにやってくる役人の話、村を訪れる仲買人、町の市場に買い物に出かけた時に聞いた話などが有力な情報源です。うまい話、かたよった話が往々にして持ち込まれます。

JVCは「近代的な便利さや技術」「手っ取り早い現金収入」に対して「身の回りの自然資源の有効利用」「伝統的な知恵や技術の見直し」という立場からの考え方、技術を可能な限り紹介していきます。村の人たちが十分な情報に基づいて自分たちの生活や将来を決めていくためです。

（JVCラオス担当 塚本 和泉）

●カムアン県 森林保全・自然農業・農村女性の自立支援

ネパールから

## SOARSの夢

完成が待ち遠しい人材育成センター



3階建てのセンターを建設中。完成すれば、宿泊施設のついたトレーニング兼情報センターとなり、ネパールのNGO・市民活動に大きな影響を及ぼすことが期待され、地球の木でも応援しています。完成予定は10月です。

ニルマラさんからメールが届きました。

「私たちの夢は、人材育成センターを、声なき人々、無力の人々、困窮している人々の声を生み出す場所に育てていくために、これらの人々と力を合わせていくことです」

信頼できる確かな現場の情報を収集、分析、調査し、多くの人に知らせることができます。その情報を元に、政府、国際NGO、NGO、民間セクターが、新しい政策や制度を立案したり、本当に必要なプログラムを計画し実行できるようにします。

「能力をつけることを通して人々をエンパワーする」ことが運営のコンセプトです。地域活動を行っているリーダーやメンバーの潜在能力を高め、尊厳と存在意義を見出す手助けをします。目的達成のために自らが主体となって動くようになることを目指します。

地球の木では、募金で応援しようと前号の会報で呼びかけたところ、約10万円の募金が集まり、その他、団体などからの募金、チームで集めた分も合わせて目標100万円の3分の1が集まり、送金しました。ありがとうございました。設備を充実させるため、引き続き募金を受付けていますので、ご協力お願いいたします。

（ネパールチーム 丸谷 士都子）



人材育成センターに集まつたイマドールの女性たち

●女性のための教育支援

カンボジアから

## とうぶも「るしな」支援を決定 ～夢は広がる～

現地のパートナーNGO、「るしな」の松本清嗣さんの一時帰国報告会が6月末にあり、チャイルドケアセンターの様子とともに、今後の展望などを聞かせてもらいました。

孤児が当初の3人から現在は21人へと大幅に増えたためケアセンターが手狭になり増築を予定しています。また、同じ村に地球の木の支援で2ヘクタールの田んぼを買い、実験農場のスタッフが耕しています。この収益も孤児のために使われます。

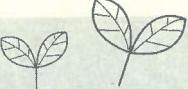
また「るしな」の基礎事業である農業協同組合作りも51の村に広がっています。アンコールワット遺跡の近くの都市シェムリアップにもオフィスを構えることになりました。さらにこれからはシェムリアップに土地を購入し、研修センターを作り、持続可能な生態系保存型有機農業を広めつつ、日本との交流や自然環境保全活動の拠点にもしたいと夢は広がっています。

また、女性や土地なし農民、病人を抱える世帯にも貯蓄と相互扶助を基本に「るしな」の貸付を行って生活の向上を図っていますが、資金のめどがなかなかたっていません。

なおこの度、とうぶがチャイルドケアセンターの支援をほくぶと共にに行っていくこととなりましたが、今後、カンボジアチームは来年1月にスタディツアーで現地を訪問したりしながら、より地球の木らしい支援を模索していきたいと思っています。

（カンボジアチーム 小泉 恵子）

●バッタンバン州のチャイルドケアセンター支援



## 本当の豊かさって何？

### 夕子のバングラデシュ訪問記

開発教育チーム 佐々木 夕子



#### JICAのNGO人材育成研修に参加して

地球の木の推薦をいただき、3月13日から26日の2週間JICAの企画したNGO人材育成研修に参加することができました。4日間の国内研修の後バングラデシュへ赴き、JICAが行っているプロジェクト、日本のNGOが草の根の活動を繰り広げている現場、そしてバングラデシュ国内のNGOが営む様々な活動を、1週間という短期間ではありますが、実際に視察することができ、私にとって非常に実りの多い時間をもつことができたのです。

#### 未知の国バングラデシュへ

それまで、バングラデシュという国は、私にとって遠い存在の国でした。1971年に独立したばかりで、サイクロンや洪水に見舞われて甚大な被害を被った貧しい国。私の持っていた知識は恥ずかしながらその程度のもので、そこで話されている言語や宗教、文化など知る由もありませんでした。

#### アジアを感じた！

しかし、初めてバングラデシュの首都ダッカに下り立って感じた空気、それは不思議と懐かしいものでした。空港の外は、深夜にもかかわらず多くの人が集まって到着客の姿を興味深げに見つめていました。その人だからの中には小さな子どももいました。赤ん坊を抱いて物乞いをする母親、路上で眠る人々。この国はやはり貧しい国なのだろうかとその時思いました。

一夜明けてその街の変り様に目を疑

いました。道という道は車や満員のバス、力車でごた返していたのです。これぞアジア。人々の熱気を肌で感じた一瞬でした。空港で見た陰鬱な光景とは打って変わって、人々は活気に満ち溢れているようでした。都心から離れて村へ近づくにつれて、その景色もまた徐々に変わっていきます。都心の埃っぽさが和らぎ、豊かな田園風景が目の前に開かれていくのです。その間を人と牛たちがゆっくりと歩いていきます。

#### バングラデシュから日本が見えた

ベンガル語を公用語とする彼らと直接話すことはできませんでしたが、目と目、心と心で何か通じ合うものがあったと思います。村の人々の生活は質素です。大地の恵みに感謝し、日々をたくましく生きているその生活に人間の本来あるべき姿を見たような気がします。彼らの明るい表情と、時折見せる美しい笑顔がこの国の豊かさを物語っているようでした。

日本に長く住んでいたというベンガル人の通訳アラムさんは、日本人の表情がいつも曇っていることを心の底から心配していました。この言葉に私ははっとしました。物や情報が溢れ、何不自由のない生活を送っているにもかかわらず、決して満たされない現代の多くの日本人。一体何が必要なのか。こうした「途上国」といわれる国を訪れていつも感じるのは心の豊かさ。私たちが今一番必要としているのは、こうした人と人の絆によって育まれる心の豊かさだと思います。



有機農法を実践している現地NGOを訪ねて



## ドキュメンタリー映画 「軍隊をすてた国」自主上映に参加して

県央 石川恵美子

9・11以来、「対テロ戦争」という正義を振りかざして武力を行使するアメリカの姿勢に、不安と嫌悪感を持っているのは私だけではないと思う。武器を持って戦うということは、大量に人を殺すということ。以前、南京大虐殺の現場にいた人達の証言を本で読んだ時のショックが頭から離れない。戦場では人間が人間としての感情を奪われ、狂気の状態におかれてしまうということの事実。ほんとうに恐ろしいと思った。

そのような時、コスタリカが軍隊を廃止して50年以上たったという事実を知った。横浜市内で市民活動を行っている有志が集まり、「軍隊をすてた国」(企画：早川勝元 監督：山本洋子)を自主上映し、コスタリカの人々の暮らしやこの国に根ざした民主主義を伝えることになり、地球の木も賛同団体として協力した。

映像をとおして、軍事費をゼロにし、教育に力を注ぎ、民主主義を実践している姿が浮かび上がる。ひとりの女の子の言葉「軍隊があったら悲しい思いや辛い思いをしなければならないから軍隊はいらない」(ほんとよねー)

映画の中に突如として現れる沖縄の美しい緑と青い海の間に浮かび上がる鉄塔を見た時、この映画は他の国の話だけではなく、日本の現実でもあることがわかる。あの囲いの土地も米軍基地として強制的に使用されている。一見平和な光景。でも平和はどこに?と思う。「平和憲法を持っている日本に有事立法なんて必要じゃない」と素朴に思う。武力で解決できることなんてあるのだろうか。

### 活動日誌 (6月~8月)

- 6月1日 ネパール調査報告会
- 8日 フィリピン青少年スタディツアーレポート会
- 11日 平楽中学校国際教育出前講座
- 13日 第1回理事会
- 27日 臨時理事会 (事務所移転について)
- 7月9日 市場中学校国際理解講座 (1年生)
- 10日 第2回理事会 理事研修 JVC国際ボランティアセンター 谷山博史さん「NGOに求められるもの」
- 14日 ミンダナオに平和のチャンスを!チャリティコンサート (賛同団体)
- 15日 鎌倉女学院高校国際セミナー出前講座 (1年生)
- 21日 フィリピン学習会 (ハンガーマップ・コンサルタント 伊藤美幸さん)
- 26日、27日、28日 「軍隊をすてた国」自主上映会 (賛同団体)
- 8月2日 川崎市教員研修 マジカルバナナワークショップ
- 6日 第3回理事会 理事研修 講師 地球市民の会 近田まちこさん
- 10日 ラオス学習会 (なんぶ主催)
- 25日 「鶴見西口オープンカフェ」にイベント参加
- 29日 ラオス現地報告会 飯田さん

### ご寄付ありがとうございました

稻垣薬品興業(株) 乳井 豊 吉田 理乃  
竹谷三枝子・亀岡 香 小坂泰子・クナウプ由  
美子・神馬純子・松沢明彦・秋山和夫・ウイル  
ソン・ヘザー・内嶋すみ子(敬称略)

4月~7月末日までに下記の募金に寄せられた金額です。引き続きご協力をお願いいたします。  
デブラン募金 18,201円  
ネパール人材育成センター募金 280,929円  
アフガン募金 85,155円  
北朝鮮募金 133,000円

# INFORMATION

事務局を移転し、新しい拠点を作りました！

9月10日より、JR関内駅のすぐそばに情報交換の場・学ぶ場・ボランティアの場としての地球の木の拠点が誕生しました。みなさん、活用してください。

## 新住所

〒231-0032

横浜市中区不老町1-3-3 フェニックス関内2F

TEL.045-228-1575 FAX.045-228-1578

## カンボジアスタディツアーアー

地球の木支援先チャーロッオプルダイを訪問し子どもたちや現地の女性たちと交流します。

また、アンコールワット等を訪ねカンボジアの自然や歴史・文化を知る旅です。

日程 12月予定 9日間

参加費 約20万円

定員 8人

主催 地球の木

旅行主催 (株) ゆうエージェンシー

## 学習会情報

### カンボジア学習会・カンボジアは今

日時 9月28日(土) 14:00~16:00

場所 地球の木関内事務所

参加費 無料

### 「私たちの暮らしから考える“非戦”」

私たちのライフスタイルと世界の問題のつながりを学習し、何ができるか話し合います。

日時 9月29日(日) 13:30~16:00

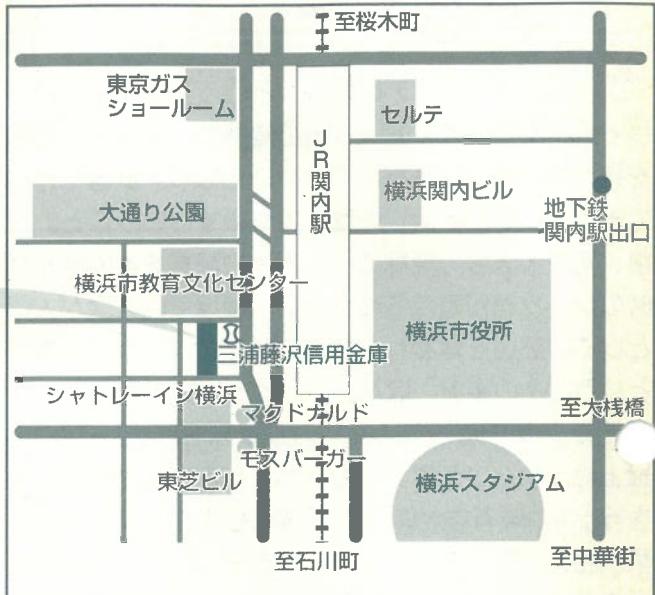
場所 オルタ館オルタリアン  
(JR・地下鉄新横浜駅下車6分)

講師 田中 優氏(自然エネルギー推進  
市民フォーラム理事)

参加費 800円

### 事務局よりお願い

- 転居される場合は新しいご住所を必ず連絡下さい。
- 会費の自動引き落としをご希望の方はご連絡下さい。



JR関内駅下車南口(横浜市役所側)より徒歩5分  
横浜市教育文化センター裏手  
または、地下鉄関内駅・伊勢佐木長者町下車徒歩10分

## イベント情報

地球の木は展示と販売をいたします。  
当日のボランティアを募集しています。  
事務局までご連絡ください。

### ●国際協力フェスティバル

日程 10月5日(土)、6日(日)

場所 日比谷公園(営団地下鉄日比谷駅・JR有楽町駅下車)

### ●横浜国際協力まつり

日程 10月12日(土)

11:00~17:00

13日(日) 10:00~16:00

場所 産業貿易センタービル  
(JR関内駅下車10分)

### 訂正

前号7ページ「フィリピン青少年スタディツアーアー」の記事中  
以下の誤りがありましたので訂正し、お詫びいたします。

・参加者のドナルド君 → ロナルド君

・これから35年かけて土地代を払わなくてはならない

35年 → 25年

## 広報ボランティアを募集しています。

本誌は古紙100%の再生紙を使用しています。